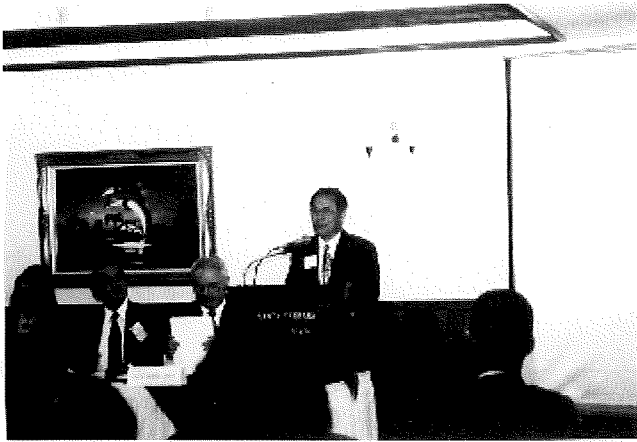


GLOBAL MAPPING NEWS LETTER

第4号

地球地図セミナーが1996年11月13日～16日まで米国カリフォルニア州サンタバーバラで開催



“環境に関する多国間宣言実施のための地球地図国際セミナー”は、国連開発援助行政管理局の主催で、カリフォルニア大学サンタバーバラ校と日本国国土地理院の共催により1996年11月13日～16日米国カリフォルニア州サンタバーバラのミラマーホテルにおいて開催されました。

この4日間のセミナーには、国家地図作成機関の専門家、関連の国際機関の専門家や研究者、国連の5名の職員を含み、23ヶ国から80名が参加しました。

地球規模・地域規模のデータ作成者による発表、発展途上国や国際機関の専門家による地球地図に対する利用者の必要性についての報告を通して、参加者は地球地図構想の重要性について同意しました。

セミナーの最後に、地球地図の整備に向けた“アジェンダ21の実行のための地球地図に関するサンタバーバラ声明”が参加者の総意として採択されました。

この宣言は、アジェンダ21の目的を達成するために世界中でデータが入手できるようにする必要性を力説し、地球地図国際運営委員会(ISCGM)が地球規模空間データ基盤(GSDI)整備の調整を行う重要な役割を認識します。

この宣言に盛り込まれる9つの勧告は、1997年の“アジェンダ21の実行に関する国連総会”の特別セッションで報告される予定です(サンタバーバラ声明参照)。

サンタバーバラ声明

21世紀の夜明けが近づくなかで、国際社会は発展へ向け新しい挑戦の時代に入りつつある。グローバル化、開放、相互依存は世界経済の鍵となる特徴として周知のところとなっている。アジェンダ21の目的、ことに第40章の「意思決定のための情報」に関しては、地図に表示されるような関連する空間データを世界中からアクセスしやすくすることによってのみ、効果的に実現することが可能である。現在の地球地図の取り組みは、主に地球規模の変化への懸念から発していることを認識し、将来の進展としては、経済成長を促進し持続可能な開発を保証するという、より直接的な国家的課題にも応えるものでなければならない。

このセミナーは、地球地図の必要性を明らかにし、国際協力を促進させるため、国連開発援助行政管

局(DDSMS)、カリフォルニア大学サンタバーバラ校、日本国国土地理院により共催されたものである。

このセミナーは、1994年に日本国出雲市で開催された第1回地球地図国際ワークショップで出された勧告に基づいている。サンタバーバラでのセミナー参加者は、地球地図への取り組みをより拡大し、協力関係を促進させるために以下の行動が必要であると合意した。

- よりよい地図及び情報を作成するため、先進国及び途上国とも地図作成機関をより一層科学技術的に発展させる方法を見いだすこと
- 政府が空間データをより効果的、効率的に利用できるよう国の人材育成についての技術協力を増進すること
- 地球規模空間データとして統合されることになりうる地図データの収集、作成、蓄積、普及を支援するために行われている途上国への技術及び経済支援を改善するためのメカニズムを強化すること
- 地球規模空間データ基盤(GSDI)の整備の調整を行うよう、国家地図作成機関と国際的な関係者の代表からなる地球地図国際運営委員会(ISCGM)を指名すること

持続可能な開発に沿った意思決定を行うために必要な核となる情報の地図化は、地球規模で行うことが必要である。国家地図作成機関、宇宙関係機関、国際学術団体、各国の研究機関、民間、大学、NGO、援助機関、開発銀行、国連などの多様なグループ全てが地球地図作成に関心をもっている。地球地図は、GSDI構想にとってきわめて重要である。

ここで「地球地図」とは、適切な縮尺、解像度での空間データの作成、更新、アクセス、将来発展、及び応用のための過程と解釈する。GSDIは、基本的な地図データ及び主題データ(例:物理データ、環境データ、社会経済データ、経済社会基盤データ及び関連する他の空間データ)を含むこととなる。GSDIは次第に、データ間の調和を促し、一つの地域の情報が他の地域の情報と統合され、持続可能な開発のための意思決定をより良くするための道具として効果的に利用されるであろう。GSDIを実現するという事は、データ政策に関わる問題や適切な協力関係の構築にも係わってくるであろう。

サンタバーバラでのセミナー参加者は、このセミナーがGSDI構想を進める上で非常に重要な機会となったことを確信している。参加者は、持続可能な開発に関連する地図や情報に対するニーズは地球規模のものであることとともに以下の点を認識する。

- 途上国や経済が移行期にある国の主たる関心は、差し迫った国家開発問題であり、これはGSDIを利用することでより良く達成されるであろう。
- 正確な地図及び情報を作成し、更新し、普及させるために国内及び各国間の協力を促進させる動機が提供されなければならない。
- 進歩を実現するためには、多様な技術的、制度的問題を克服しなければならない。

参加者は、現在適切な地球規模の地図が存在しない理由を認識する。国家の安全保障、主権、技術、能力、インフラストラクチャーの問題が国際協力の機会を制限している。これらの制限が複合され、現在の地球地図整備活動は縮尺100万分の1のものに限られた形となっている。地球地図の恩恵を最大限に活用するためには、この縮尺もしくは可能な場所ではより大縮尺での空間データの共有を促進することが必要である。これらの取り組みにあたっては、特定の地域や国家の優先度に合うように異なる縮尺及び解像度の空間データの要求条件を認めなければならない。現在のアクセス政策(たとえば配布及び共有の制限)を地球規模の共通データセット作成の束縛とならないように仕向なければならない。

このセミナーでは、地球地図に含まれるデータ作成に貢献する多くの取り組みが進行中であることを確認した。参加者は、技術的、財政的束縛に直面している国々を含む国家地図作成機関が地域から地球規模までの縮尺の、より良く、より利用しやすい地図作成という目的に貢献する取り組みを続けることを奨励する。参加者は、この活動におけるISCGMの触媒としての特別な役割を認識するとともに、ISCGMに対して、サンタバーバラセミナー参加者によりなされた勧告の実施に際し、該当する項目について、指導的役割を果たすことを期待する。

サンタバーバラセミナーの参加者は、主催者の努力を高く評価するとともに、GSDIという枠組みにおける地球地図作成の実施を促進する上でのセミナーの成果を認識し、以下を勧告する。

1. GSDIの構築促進のため、データ利用者と提供者が集まる地球地図フォーラムを創設しなければならない。国家、地域及び国際機関、NGO、民間企業、大学、国家地図作成機関、宇宙関係機関及びその他の関連機関が、この取り組みに関わる必要がある。ISCGMはこのようなフォーラムの創設のために調査を行い、GSDI構築の進捗状況の定期的な評価、規格の調和、地球地図ネットワークの確立のための仕組み等のフォーラムの責務を確定しなければならない。このようなネットワークは、意志疎通の円滑化のために、インターネットやその他の通信手段に接続されることとなる。
2. アジェンダ21を実行する機関は、その実施、適合性チェック、実施状況検査のために、必要な空間データや情報の要件を（たとえばISCGMなどの）専門家グループの援助で、正確に確定しなければならない。これらの要件は、GSDIに優先的に含まれるべきである。
3. 途上国及び経済移行期にある国の国家機関の参加を促進するために、GSDIの枠国におけるプロジェクト協力のための財政的及びその他の動機付けを工夫しなければならない。
4. 援助機関及び開発銀行は、途上国及び経済移行期にある国の機関に対して、空間データ製品及びサービスの質を改善するとともに、地域的及び地球規模の地図作成のためにこれらの空間データへのアクセスを促進するための援助を増大しなければならない。
5. 空間データ政策及びアクセスに関する問題は、国連地域地図会議で討議されなければならない。
6. 地球地図整備は全般について国連の傘下で進めるものとし、国家、地域、地球規模レベルで取り組むべきことを認識するべきである。
7. 国連環境計画の地球資源情報データベース(UNEP/GRID)及びGSDIの活動に直接的に含まれるその他の国連の計画は、国連機関及び加盟国に対して必要な技術支援システム及びメタデータサービスを提供するべく強化されなければならない。
8. 種々の国家、地域、国際機関による技術支援のための補完的な取り組みがGSDIの活動を強化する上で、奨励され、調整されなければならない。
9. これらの勧告は、1997年のアジェンダ21の実行に関する国連特別総会で発表する報告の中に盛り込まなければならない。この報告は、ISCGMの支援のもと、国連DDSMSの後援で作成され、アジェンダ21実施のための明確で実際的な提案となるべきものである。

第2回地球地図国際運営委員会会合

セミナーの後、16日の午後に第2回地球地図国際運営委員会会合が開催されました。2名の新しい顧問を含む、11ヶ国から12名の委員と3名の顧問が（ニュージーランドと英国の委員が欠席）サンタバーバラ声明を支持し、戦略計画作成などのためにワーキンググループを設立することを含む決議を採択して会合を締めくくりました（決議は次号のニューズレターに掲載予定です）。

委員の交代と顧問の追加

オーストラリア測量土地情報局(AUSLIG)からのISCGM委員であるビル・ハーヴィー氏は、AUSLIG総支配人のピーター・ホランド氏と交代しました。

中国国家測絵局(NBSM)次長のヤン・カイ教授は、NBSMからのISCGM委員として、チュー・リャンカイ教授の後任となりました。

国連環境計画北米環境評価プログラム地域コーディネーターのアシュビンドゥ・シン博士とナショナル・ジオグラフィック協会地図責任者のジョン・シュープ博士が新顧問として任命されました。

新事務局長からの挨拶



私は昨年10月にISCGMの新事務局長に任命されました。地球地図プロジェクトに参加し、事務局の常勤や非常勤の職員と一緒に働くことは本当に感動的です。

第2回地球地図国際運営委員会会合では、私たちは、委員長のエステス教授、副委員長のマジック氏、ISCGMの委員、顧問や関係のすべての方々の支援により事務局を任務を果たすことができました。彼らに心から感謝致します。

このニューズレター第4号では、サンタバーバラセミナーと、第2回ISCGM会合について報告します。

事務局の職員全員は、この会合の決議とサンタバーバラ声明の実施に最善を尽くすつもりです。皆様のご協力をご支援を賜りますよう宜しくお願いします。

また、ニューズレターやホームページに対する皆様からのご意見をお待ちします。

(国土地理院地理調査部長 永井 信夫)

[戻る](#)